

子どもや保護者の 悩みや心配ごと

出雲市子ども支援センターに 相談してください



出雲市子ども支援センターは、子どもの健やかな成長を願って活動しています。
さまざまな悩みや心配ごとを抱える子どもや、その保護者などからの相談に対し、親身
になって対応します。また、就労体験など必要に応じて地域のボランティアなどの協力を
得ながら子どもたちの自立支援を図っています。



悩みは抱えず相談を

出雲市子ども支援センター
中村 幸一 所長

4月から子ども支援センターの所長に就任しています。3月までの教員としての長年の経験を生かして、青少年の健全育成に少しでもお役に立てればと思っています。

学校でのいじめの問題や、子どもの不登校やひきこもり、しつけの悩みなど、一人(家庭)ではなかなか解決できない問題が増えています。

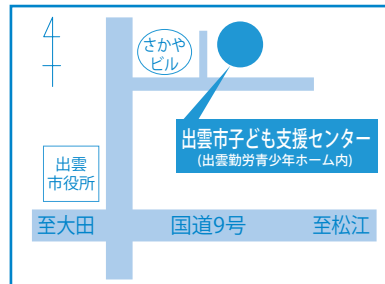
支援センターでは、子どもに必要な支援を一緒になって考え、継続的にサポートしていくことで問題の解決を目指します。秘密は守りますので、気軽に相談してください。

このような相談に応じます

- ◎非行や問題行動について
- ◎性格や行動、身体や心の問題について
- ◎しつけや家庭教育について

相談日時

- ◎月～金曜日
8時30分～18時まで
- ◎土曜日
8時30分～17時まで
(ただし、祝日・年末年始を除きます)



相談方法

電話相談と面接相談(予約制)です。
まずは相談電話(フリーダイヤル)

ヤッホー ナ ヤ ム ナ
0120-84-7867まで

青少年の自立支援活動に協力してみませんか 『就労支援員』(事業主)を募集しています

子ども支援センターでは、引きこもりや非行の青少年に対し、カウンセリングと並行して就労体験、スポーツ体験、文化体験、地域交流などの自立支援を行っています。

このうち、就労体験は、働く体験を通じて、青少年の自立支援や社会復帰を目指すものです。社会に出ることに不安を覚えている青少年にとって、実際に働いてみることは、大きな自信につながります。

この就労体験を受け入れてくださる事業主『就労支援員』を募集しています。美容院、建築業、配送業、飲食業などさまざまな業種の登録をお待ちしています。

協力をお願いできる方は、子ども支援センターまでご連絡ください。スポーツ・文化、地域交流などの支援ボランティアも随時募集しています。

●おたずねは
出雲市子ども支援センター(☎21-4444)

毎月第3日曜日は 『しまね家庭の日』

今、家庭が問われています。子どもが育つ第一の場は家庭です。子どもの健やかな成長のためには、家庭のあり方がとても重要です。青少年育成島根県民会議では、毎月第3日曜日を「しまね家庭の日」と決めています。日ごろ、子どもと接する時間の少ない家庭では、「しまね家庭の日」を一つの機会として、たとえば次のことから、家族のふれあいを楽しむ時間にしてはいかがでしょうか。

- ノーテレビタイム(テレビを見ないで、一家だんらの時間を楽しみましょう)
- みんなで作ろう家族の記念日(家族の思い出をつくりましょう)
- 地域行事への参加(親子で地域のみなさんと交流を深めましょう)



青い旅

平成19年(2007)9月

大人が変われば、子どもも変わる

“大人が変われば、子どもも変わる”という標語は、青少年育成国民会議の青少年健全育成運動の基本理念です。先行き不透明といわれる今、次代を託す青少年の健全育成は、大人にとって極めて大切な使命です。しかし、青少年を取り巻く環境は、決して良いとはいえません。非行や犯罪、いじめ問題など、子どもをめぐる問題は依然として後を絶ちません。「子どもは、社会を映す鏡」と、よく言われます。この社会環境をつくったのは私たち大人です。私たち一人一人がこのことをしっかりと自覚し、自らの姿勢を正し、青少年の見本となるよう努め、青少年のための環境を整備していくことが急務ではないでしょうか。
大人が変わるために、次のようなことを実践してみましょう。

★積極的に子どもにかかわる

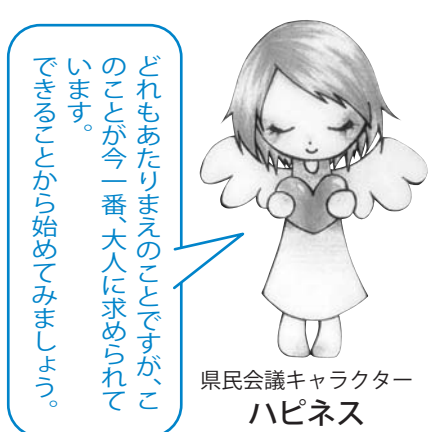


あいさつは全ての基本です。子どもたちに“おはよう”“こんにちは”と積極的に声をかけましょう。また、良い行いをしたときは、ほめてあげましょう。

★行動を後ろ姿で示す



自分自身を振り返り、過剰な利己・個人主義は見直し、子どもたちの手本となるようにしたいものです。地域社会との関わりを深めることも大切です。



どれもあたりまえのことですが、このことが今一番大人に求められています。
できることから始めてみましょう。

県民会議キャラクター
ハピネス

★いけないことは、「いけない」としかる



危険な遊びやルール違反は、見て見ぬふりをせず、注意しましょう。

★子どもと一緒に悩む



いつでも子どもの気軽な相談相手であり、理解者でありたいものです。子どもが困ったとき、苦しいときこそ、心のよりどころになれることが大事です。

★子どもを温かく見守る



友だちとの遊び、自然や動物との触れ合い、異年齢グループの中での活動は、子どもの健やかな心や身体を育むうえで欠かせない体験です。子どもが、自分で考え、判断し、行動するという体験の機会や場づくりも大切です。